

香港特別行政区政府渠務署 (DSD) との都市河川再生に関する技術交流報告

技術参与／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)代表理事 土屋 信行
水循環・水環境グループ／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局 和田 彰

1. はじめに

2019年5月下旬に、香港の河川及び下水道の管理全般を担う香港特別行政区政府渠務署 (DSD: Drainage Services Department) を訪問し、河川行政に携わる DSD 職員及びコンサルタントチームと都市河川再生をテーマに技術交流を行いました。

2. 香港の河川事情

これまで、香港では河川を雨水排水路 (Drainage) と位置づけ、洪水を海へと速やかに流下させる整備を進めてきました。しかし、2015年に排水路の親水整備及び自然再生を目指す新たな施策が導入され、排水路を都市域における貴重な水と緑の河川空間へと再生していく事業が始まっています。

この背景には、治水整備により洪水頻度が減る中で地域の住民の河川再生への期待の高まりとともに、8割の水資源を中国本土に依存している香港の水自給率を高めるため、節水社会を目指した水意識社会の再構築という狙いもあるようです。

3. 日本の都市河川再生の歩みを紹介

今回の技術交流では、約50名のDSD職員を対象とした日本の都市河川再生の歩みや事例を共有する講演会が開催されました。

日本における1950年代の水質改善や1960年代の河川空間利用に向けたルールの制定、1990年代の多自然型川づくりや2000年代の自然再生、その後のかわまちづくりや河川空間オープン化などの変遷とともに、川づくりにおける市民参加の歴史等について事例を含め紹介させて頂きました。

再生技術、安全面や維持管理、市民参加の進め方等、参加者より多数の質問を頂戴し、日本が培ってきた都市河川再生に関わる様々な経験に対するニーズの高さを再確認することができました。



JRRN 土屋代表による挨拶及び講演

4. Yuen Long Town Nullah 再生事業

洪水防御・水質改善・親水整備・自然再生など複合的な河川整備を計画中の香港北西部を流れる

Yuen Long Town Nullah を案内頂きました。

本事業対象地域は海拔5メートル以下の低地に位置し、IPCC 第5次評価報告書 (AR5) における気候変動による21世紀後半の海面上昇は0.26m～0.82m、さらに50年確率では最悪のシナリオで平均海面が3.4mから4.3mに上昇し、高潮災害のリスクが高まっています。そこで、気候変動の影響を考慮した治水対策が検討され、流末部での可動堰や排水機場の建設に合わせ、沿川から流入する汚水の分離対策、更には現在はコンクリート三面張りとなっている河川の親水整備や多自然化を計画しています。



Yuen Long Town Nullah の現状

5. おわりに

2009年より始まった香港政府とJRRNとの技術交流も11年目に突入しました。双方の経験や教訓の共有を通じ、香港及び日本における地域に親しまれる豊かな川づくりに引き続き貢献して参ります。